

日本触媒

デボトル増強の検討を開始した。洗剤向けに需要が拡大していることから、年間3万トンの現有能力を2〜3割程度引き上げる方針。一方、現在検討を進めているEOの海外生産に関しては、同5万トンのコンパクトプラント導入を視野に入れており、東南アジア市場への進出を検討していく。また海外進出に際しては、界面活性剤メーカーなどの現地誘致も目指していくとしている。

東南ア進出も視野

EO事業は、アクリル酸(AA)・高吸水性樹脂(SAP)事業と並ぶ、同社主力事業の1つ。2010年には川崎製鉄所でEOの能力増強を実施しており、同製造所において年間32万トンの生産能力を確保している。EO事業では、EOを原料として、洗剤や、ポリエチレン繊維などに使われるエチレングリコール(EG)、エタノールアルミル(EG)、エタノールアルミル(EG)などの誘導品を製造中。現在、安定的に70%前後の非EG化率を維持しており、収益基盤の安定化を図っている。

収益基盤強化の一環として、高級アルコールソフタノール」の増強を検討する。ソフタノールはノルマルパラフィン原料とする直鎖型の第2級高級アルコール系製品。高い浸透力やユニークな泡性状、表面張力低下能、低粘度、低流動点からくる取り扱いやすさなどの

日揮触媒化成

フアイン事業拡充

高屈折率チタニアナノ粒子など 新製品の開発推進

日揮触媒化成は、フアイン事業で新製品開発を強化している。光学材料ではチタニアナノ粒子の開発を強化しており、新製造プロセスにより高屈折化し、無機高屈折率剤として提案活動を進める。このほか、反射防止(AE)やアンチグレア向け高機能原料として、従来のフィルム用途に加えて、新たに液相法による直接コート向け材料を提供する。タッチパネルなどの透明電極に用いられる酸化インジウムスズ(ITO)膜向けなどで普及を進めていく。また、電池材料では次世代電池をターゲットにした研究開発を進め、2015年度をめどに実用化を目指していく方針。

日揮触媒化成のフアイン事業では、チタニアナノ粒子の金属酸化物やシリカなどによる高機能ナノ材料を展開。フィルム向け光学材料やバイナリーなどの樹脂向け製品、UVカット剤などの化粧品原料、研磨材など多彩な製品を提供している。

新チタニアナノ粒子は、焼結法でチタニアを合成することで、従来の液相合成法と比べ結晶配向性を高め、屈折率を向上させている。さらに粉砕などによる微細化技術

を最適化することで、均一なナノ粒子として製品化。より高屈折率の新グレード製品として提案活動を進めている。

ARやアンチグレア製品向けの高機能原料では、従来用途のフィルム製造向けに加え、液相法による直接コート向け原料

樹脂用塗料を拡販 色追加で海外市場狙う

トーチ(東京都品川区)は、ポリエチレン(PE)、ポリプロピレン(PP)、繊維強化プラスチック(FRP)、塩化ビニルなどの各種素材に適合する1液常温速乾型塗料「PEコート」の販売を強化する。カラーバリエーションを追加して、海外企業に売り込むとともに、国内ではインフラ施設の補修やオリビック開催に向けた景観向上の機運に着目して販路を広げる。

同社は、PEとPPへの塗付を想定したPEコート、PPコートを個別にラインアップしてきた。このほど適応範囲の広いPEコートに製品構成を一本化するとともに、ゴールド系や赤系のカラーを追加した。ゴールド色を好む中東の海運企業や、赤をシンボルカラーとする航空会社

社が採用を開始し、船舶内部や空港施設のFRP素材に使われている。国内では表面をPEで被膜した鋼管が主要な用途となっている。原発施設などで使われるPE被膜鋼管は色が厳密に決まっている。製造ラインで着色するとコスト高になるため、後塗りできるPEコートのニーズが高いという。

このほか、オリビック開催で活性化が見込まれる。橋梁に付属した塩ビ製排水管などの着色・補修での利用を提案する。塩ビは安価のため、劣化すると補修せず部品ごと交換することが多いが、設置場所によっては交換が難しい。

また、耐候性を生かしてPE製の遊具に、プライマーとして使えば広告ラッピングが可能になることから、ベロタクシーに用途拡大を狙う。

PEコートは15年の耐候性、温度20度Cかつ湿度60%の環境下で10分の乾燥時間を確保した。PE、PP、ステンレス、亜鉛メッキ、アルミニウムに適合する。

一般にPEやPPに塗装を行う際は、化学エッチング処理やブラスト処理といった方法で表面処理を行う必要があった。PEコートは独自開発した合成樹脂を使うことで、直接塗装を可能としている。

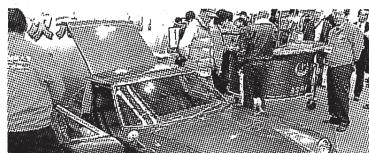
東洋アルミニウムの顔料「クロマシヤイン」を配合した塗料が塗装された電気自動車(EV)が、20日から23日までインテックス大阪で開催された大阪モーターショーに展示された。

展示されたEVは、産業技術短期大学の久保田憲司講師らが、英国の名車であるロータスエローップを学生と電気自動車に改造したもの。

東洋アルミのメタリック顔料

「クロマシヤイン」の塗料が塗装されたエローップ

クからの反射光より、複雑な色



EV改造

東亜合成

速 中国で取扱店舗4000店に

市場が拡大している 文具店などへ販売し、8 月は約5割のシェアを得

討

合成染料販売量
3カ月連続減少

10月

化成工業協会がまとめた10月の合成染料需給

実績によると、販売量は前年同月比2%減の1544.1ト、3カ月連続で前年実績を下回る結果となった。生産量も9月以降、2カ月連続のマイ

ともない所得水準が向上しており、家庭における瞬間接着剤の需要が拡大しており、同社ではアジ

市場では、現地メーカーが販売している安価な瞬間接着剤に比べて高額だが、機能や性能面で優位